

バン部会

会員独自の工夫を凝らした架装で
お客様の要望に応える

1. 部会概要

部会制度発足当時（1953年）は、冷凍車、保冷車などは特種部会の中で活動していたが、モータリゼーションの進展、物流形態の時代変化により、バン型車が大幅に増えたため、1971年3月に分離独立させ、「バン部会」が発足した。

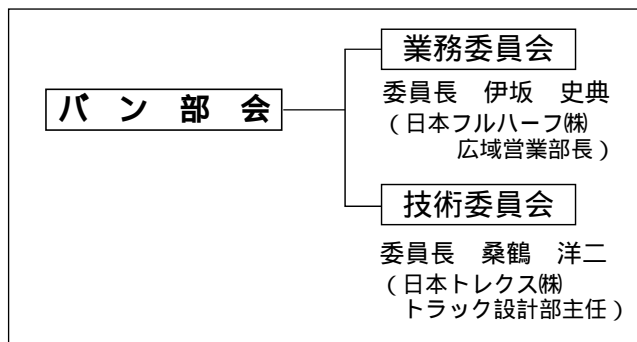
冷凍車・保冷車・ドライバン車、ウイング車、リフト車、分割荷室車等の幅広い車種を大・中・小・軽自動車といった多くのサイズで扱っている部会である。

荷役作業の省力化や効率化を追求した機能付き車両を会員独自の工夫で架装してユーザーの要望に応えている。現在の会員数は、34社と大規模な部会になっている。

2. 組織

2007年度役員は、次のとおり。

会長 川本 豊 日本フルハーフ(株) 取締役
副会長 北村 泰作 (株)北村製作所 取締役社長
副会長 倉持 弘海 (株)パプコ 顧問



3. 活動内容

多様な用途、形状を持った車種の法規対応調整や車両動向を把握し、提供する活動を行っている。

主な活動としては、

- 1) 経営改善のための情報の共有化
 - ・需要動向や市場全体状況の把握
- 2) 環境への配慮のための検討と情報の共有化
 - ・車体工業会環境適合ラベルの貼付率向上
 - ・商用車架装物の解体に関する動向

3) 各種法規動向への取組み対応

- ・大型後部反射器の基準改正に伴う取付け検討
- ・前部突入防止装置の取付車に対する架装物の影響評価
- ・大型車用再帰反射材の基準化（任意規定）に伴う取付け検討

4) 規格作成の検討

- ・バン車両コンテナの解体性向上のJABIA規格化検討

5) 不正な二次架装の根絶活動

（本部活動の部会への徹底）

2007年2月には、ECE R50の改定に伴う後部突入防止装置（3分割バンパ）の強度確認テストを実施し、安全確認のための成果を得ることが出来た。今後、この成果を元に検討を進めていくこととしている。

発行物

「バン型車両コンテナの解体性向上に関する報告書（2005年3月）」

適正処理のための解体作業が困難であるとされる保冷・冷凍コンテナの保冷性能、耐久応力測定、解体実験結果についてまとめた。

目的は、保冷・冷凍コンテナの主流であるサンドイッチパネルタイプコンテナの材料や構造の見直しを図り、解体作業時間の短縮化およびリサイクル性を高めた新構造コンテナの研究開発である。この結果、締結を接着およびリベット構造からタッピングビスにしたこと、インサート材をスチールからアルミに変えたこと、ノンフロン断熱材を採用したこと等によりリサイクル可能率向上や解体時間の短縮を図ることが出来た。2007年度では、JABIA規格化を検討している。



部会・委員会紹介/部会長インタビュー

バン部会

川本 豊 部会長に聞く

（日本フルハーフ(株)取締役）

不正な二次架装の根絶とともに バン部会の更なる活性化を 目指す！

最近の自動車を取り巻く環境について教えてください。

2006年度は、普通トラックベースで10万5千台、その内バンが4万台弱（バン化率38%弱）とまずまずといったところでしょうか。ちなみに10年前（1996年）のバン化率が23%でしたから随分と増えました。しかし、今後に関しては正直申し上げて非常に厳しく受け止めています。これはトラック全般に言えることですが、2003年に始まったいわゆるNOx・PM法に基づく代替需要がおおむね一巡したことや、減少傾向にある国内貨物総輸送量（日通総研レポート）それに加えての燃料高騰です。これでは我々のお客様である運送事業者自身の経営を圧迫させていることは必至でしょうし、悲観的にならざるを得ません。これはシャシメーカーの予測でもありますが、普通トラックベースで8万台弱といった「冬の時代」が、4～5年続くのではとされていますし、ですから本当に厳しいですね。

これは我々のお客様である運送事業者自身の経営を圧迫させていることは必至でしょうし、悲観的にならざるを得ません。これはシャシメーカーの予測でもありますが、普通トラックベースで8万台弱といった「冬の時代」が、4～5年続くのではとされていますし、ですから本当に厳しいですね。

バン部会の主要課題、取組みについてはいかがですか？

これはなんと言っても世間をお騒がせした不正改造問題があります。これには二つの側面があり、ひとつは不正改造をしない、させないという防止に重きをおいた従来の「不正改造防止」活動、そしてもうひとつは社会事件化してしまったものへの改善実施ですね。

後者に関しては昨年内川会長の強いリーダーシップの下、各会員共その不正件数を正直に提出し、車体工業会として国土交通省に報告したものです。そして改修にあたってはおびたしい数にわたる件数、客先ということから会員有志による「車工会ワーキンググループ」を発足させ、シャシメーカーを巻き込んで取り組むという、従来ではあまり考えられない「改修スキーム」を作り上げました。

現在はこれを基に会員各社とも鋭意努力をしており、改修実績を上げているところです。今後は更に加速させることが必要ですね。



今後の計画や抱負についてお聞かせください。
「公益法人を目指す」という車体工業会の大きなテーマがあります。従いまして我々バン部会としてはまず、不正改造問題解決、根絶に全力を上げていきたい。幸いにして昨年不正改造車両の改善実施の為に「改修スキーム」を国土交通省ご理解の下、シャシメーカーのサポートで発足させました。今年はこのスキームにシャシメーカー4社が正式に参画、また販社側代表として自販連にもお願いいたしました。三者がスクラムを組むことで、車体業界長年のテーマとしてきた不正改造問題という忌まわしい事案を根絶していきたいと考えています。

もうひとつは会員カバー率の向上ですね。これには会員サービスの向上、入会魅力のアップが欠かせませんし、事務局と検討していきたいと思っております。

以上2007年度はバン部会活動を活性化していきたいと思っておりますのでご支援よろしく申し上げます。

Profile

- ◆業務歴
 - 1974年 4月 日本フルハーフ(株)入社
 - 2004年 6月 取締役 営業推進部長
 - 2005年 6月 取締役 トレーラ事業部長
 - 2006年 6月 取締役 広域営業部長
- ◆車工会歴
 - 2005年 4月 バン部会長就任
 - 5月 理事就任
- ◆趣味・嗜好
 - ・読書（司馬遼太郎、城山三郎他何でも...）
 - ・ゴルフ（あまりやってませんが...）
 - ・カラオケ（同上）

◆人物評
川本取締役を一言で評するとすれば、今年のNHK大河ドラマの主人公「山本勘助」のような「軍略家」が相応しいでしょう。ひとたび弁ずれば滔々と水の流れるが如く一片の濺み無く理路整然と理非曲直を明らかにし、聞く者の心を揺さぶらざらぬはいられません。これからも、風林火山の旗印の如く、縦横無尽に車工会の場で活躍していただけるものと、確信しています。（ある同業会員より）